

# 一般講演 I

座長：吉村 耕治（静岡県立総合病院）

## 1 特発性腎出血や放射線性膀胱炎による 肉眼的血尿に漢方薬が奏功した5例の使用経験

原三信病院 泌尿器科

相島 真奈美、武井 実根雄、一倉 祥子、横溝 晃

【緒言】特発性腎出血や放射線性膀胱炎による肉眼的血尿は、繰り返すことで起こる貧血や、膀胱タンポナーデによる尿閉などで治療に難渋することがある。利尿剤の代表である猪苓湯と、血虚に用いられる四物湯を併せた処方である猪苓湯合四物湯が奏功した症例を報告する。なお当初当院に採用なく、猪苓湯と四物湯を併用していた。

【症例1】58歳女性。2009年特発性腎出血に対し尿管鏡に対するレーザー焼灼術を施行。その後血尿なかったが2015年に一度だけ血尿あり精査にて異常なし。2017年2月より連続的に血尿認めやはり諸検査異常なく、猪苓湯と四物湯処方。消失はなかったが改善を認め、Hb低下もないため量を調節し処方継続。2021年には顕微鏡的血尿も消失し現在処方継続中。

【症例2】18歳女性。学校の検尿で尿潜血を指摘。その後受診2ヶ月前から持続する肉眼的血尿認め2017年5月受診。受診時は潜血尿のみであったが精査で異常なく、特発性腎出血と考え猪苓湯と四物湯処方。内服3-4日後より血尿消失し、以後内服漸減し一旦中止した時のみ一度血尿あったためその後再開しすぐ消失。その後再度内服を漸減し中止挑戦するも、現在まで再発なし。

【症例3】18歳男性。2018年1月突然の肉眼的血尿認め、その後断続的に血尿あり2月5日当科初診。CT含め諸検査異常なく、検査時は潜血尿もなかったが、帰宅前に再度G5の血尿認めため猪苓湯合四物湯処方した。数日で血尿消失しその後内服漸減して中止するも再発なし。

【症例4】66歳女性。54歳時子宮頸癌に対し手術、化学療法、放射線治療施行された。2020年3月より肉眼的血尿認め、近医から4月に当科紹介。諸検査異常なく、初診時血尿消失していたため一旦終診。2021年10月に2ヶ月前からの断続的な血尿で再来。再度膀胱鏡にて放射線性膀胱炎であること確認し猪苓湯合四物湯処方開始。翌日から血尿消失し漸減して継続。その後は長い時間の外出や重いものを抱えた後の軽度血尿のみで経過している。

【症例5】65歳男性。2017年、前立腺癌に対し（GS6、AS勧めたが治療希望強く）重粒子線治療施行した。治療後4年の2021年断続的な肉眼的血尿認め臨時受診。CT異常なく、膀胱鏡にて前立腺部尿道から膀胱三角部に向け血管拡張目立ち、出血痕もあったため放射線性膀胱炎と診断し猪苓湯合四物湯処方。翌日から血尿消失し極まれにG1程度の血尿認める程度でほぼ顕微鏡的血尿のレベルに治まっている。現在も処方継続中。

【考察】特発性腎出血や放射線性膀胱炎は貧血を伴う重症例では、電気やレーザーによる焼灼、硝酸銀注入など侵襲を伴う治療が必要になることがある。止血効果や血虚の改善により猪苓湯合四物湯が奏功することがあり、有用な選択肢となりうると考えられる。